

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	佐野 智昭（6）	<p>1. 近年頻発している内水氾濫による被害の軽減対策について 近年、地球温暖化等の影響により、全国的に集中豪雨や局地的大雨の発生頻度が高くなっており、それに伴い浸水被害、冠水被害も増加している。</p> <p>本市においても同様の傾向にあり、特に低地部等において、内水氾濫による被害が頻発している。</p> <p>今後ますます大雨等の頻度が高くなり、激しさを増すこと（時間雨量等の増）が予想され、外水氾濫による被害に加え、内水氾濫による被害の多発化と甚大化が懸念される。</p> <p>そのため、低地部においては、外水氾濫への対策に加え、内水氾濫へのきめ細かな対策が必要ではないかと考え、以下質問する。</p> <p>(1) 内水氾濫による被害をどのように把握しているか。</p> <p>(2) 内水氾濫による被害の軽減対策をどのように考えているか。</p> <p>(3) 内水氾濫による被害に対応していくためには、準用河川や主要な普通河川の流域ごとの対策が必要であると考えがいかがか。</p> <p>2. ウィズコロナ時代を迎えての地区まちづくり協議会の在り方について</p> <p>コロナ禍の中で、まちづくり活動に対する制約が生じ、地区住民が集い、顔を合わせ、交流する機会が極めて少なくなり、地域のつながりの希薄化への危機感は一層高まっている。</p> <p>特に、まちづくり協議会への影響は予想以上であると感じており、組織の脆弱化、役員の成り手不足の深刻化などが一層進むとともに、従来のまちづくり活動の再開にも苦慮している地区があると推測する。また、まちづくり協議会自体の必要性を問われることもある。</p> <p>そのような中、市では、富士市まちづくり活動推進計画（第1次実施計画、第2次実施計画）を踏襲し策定した、計画期間を令和4年度から令和8年度までとする新・富士市まちづくり活動推進計画（以下、「活動推進計画」という）に基づき、各種個別施策を展開しているところである。</p> <p>富士市議会9月定例会での吉川議員の「新・富士市まちづくり活動推進計画とまちづくり協議会の関連及び課題について」の一般質問を聞き、また11月に実施された「まちづくり協議会の部会機能活性化研修会」に参加し、市の考えや取組とまちづくり協議会の実態とに乖離が生じているのではないかと感じ、以下質問する。</p> <p>(1) まちづくり協議会におけるコロナ禍の影響をどのように捉えているか。</p> <p>(2) 各地区のまちづくり協議会組織の実態をどのように捉えているか。</p> <p>(3) まちづくり協議会の中には、従来からの課題に加えコロナ禍の影響により停滞傾向にあり、ウィズコロナの時代に</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
12	佐野 智昭（6）	<p>おいてどのように組織を確立し、活動を実施していくのか悩んでいる地区もあるように感じる。その指針となるのが活動推進計画であるが、内容が抽象的であるため、特に以下の点については、より具体的に分かりやすく提示する必要があると考えるがいかがか。</p> <p>① まちづくり協議会がどうして必要か。</p> <p>② 地区のまちづくり活動は、まちづくり協議会が中心に推進していくという考えが示されている中で、各地区の町内会（区長会）連合会や各種団体・組織との関係をどのように位置づけるのか。</p> <p>③ 部会機能の強化を重視していくという考えが示されているが、具体的にどのようなことか。</p> <p>④ イベント型から課題解決型のまちづくり活動を推奨しているが、具体的にどのようなことか。</p> <p>(4) まちづくり協議会の組織体制、活動において、各種団体・組織の役割、関連性は重要なポイントになると考えられる。令和3年2月定例会において、各種団体等の在り方について質問し、市長の答弁は「行政と地区の関連性について整理し、各団体・組織の役割や意義などを含め、全庁的に協議する場を設け、地区の負担軽減を踏まえ検討してまいります」ということであったが、検討状況はいかがか。</p> <p>(5) 活動推進計画には、まちづくり協議会の組織改革として、参考例で地区まちづくり協議会の概念図が示されているが、(1)から(4)までの答弁等を踏まえ、同様に参考例としてでもよいので、より具体的にまちづくり協議会の組織の在り方を提示する必要があると考えるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長